



エスディー・ジーズ  
**来年は  
SDGs中間年**



= 「つづく世界」に向けて  
みんなでつながろう！ =

稲場 雅紀



# SDGsブームの象徴 SDGsバッジ

## SDGsの認知度は上がったが…。



◆SDGs開始 (2016年) から7年。

日本では認知率は86%に！！ (22年1月、電通調べ)

◆一方、朝日新聞調査 (2022年)

「SDGsはうさん臭いと感じたことはある


か？」⇒はい 58%

### 「SDGs、どこがおかしい？」

SDGsが初めて提案されてから10年、始まってから7年。

来年は「中間年」。達成期限まで、あと8年！

世界は、もっと「安心」なものになっていいはずなのに、  
なぜ、どんどん「危険」に？



# SDGs誕生10年：もう一度見直そう だれが思いついた？誰が作った？SDGs

2012年：SDGsのふるさと（発案国）は  
**南米・コロンビア共和国**



←おもとはこの人  
コロンビア共和国外務省  
環境局長  
**パウラ・カバジェーロ氏**



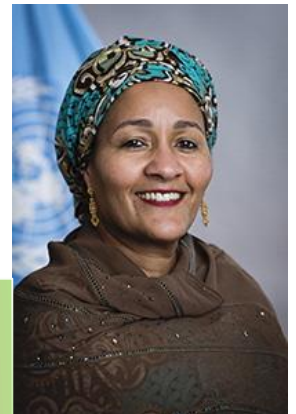
**サントス大統領（2016年ノーベル平和賞受賞者）**  
世界に猛プッシュ

「貧困をなくす」「持続可能な世界の実現」の二本立て  
「リオ」のアジェンダと「MDGs」のデザインを合体させたのが「SDGs」



**途上国出身のリーダーたちが策定をリード**

- 左：マチャリア・カマウ国連大使（ケニア）
- 右：アミーナ・モハメッド国連事務総長顧問（ナイジェリア）



3.5年にわたる交渉の末、17ゴール、169ターゲットで  
形成される「SDGs」が採択された。



# SDGsの17ゴール

この下に169のターゲット、成果をはかる「指標」

## ★あらゆる貧困をなくす

1. すべての貧困をおわりにする。
2. 飢えをなくし、栄養を改善し、つづく農業をすすめる。
3. あらゆる世代のすべての人が健康な生活を送れるようにする。
4. すべての人が、公平に、質の高い教育を受けられるようにする。
5. ジェンダーの平等を実現する。すべての女性・少女が自信を持つ生きられるようにする。
6. すべての人かきれいな水とトイレを今後ずっと使えるようにする。

## ★環境を守り育てる

12. 地球がずっと続いていけるような「つくる・つかう」仕組みをつくる。
13. 地球温暖化をやわらげるための策をする。
14. 海のいきものと資源をまもり、今後ずっと利用できるような仕組みを作る。
15. 陸のいきものと資源をまもり、今後ずっと利用できる仕組みをつくる。

## ★「つづく経済」をつくる

7. すべての人が、今後ずっと、手ごろな値段で、信頼できるエネルギーを使えるようにする。
8. 経済が今後ずっと、誰も取り残さない形で成長し、すべての人がやりがいのある良い仕事につけるようにする。
9. 強くしなやかなインフラをつくる。誰も取り残さない形で、今後ずっと続けられる産業とイノベーションを拡大する。
10. 国の中と、国同士での不平等をなくす。
11. 安全で今後ずっと続いていく都市と、みんながよりよく生きられる生活環境をつくる。

## ★ゴール1～15を実現する

16. 犯罪を減らし、だれもが公正な裁判を受けられるようにし、汚職をなくし、責任を果たす、仕事のできるお役所をつくり、みんなが参加して物事を決めるようにする。
17. 今後ずっと続いていける地球をつくるために、みんなが協力できるしくみをつくる。

# MDGsの「選択と集中」アプローチから 普遍的・統合的・包摂的アプローチへ



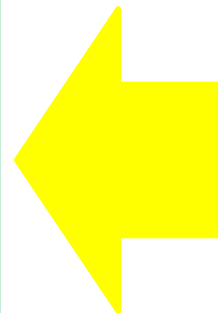
- ◆ 先進国は「**選択と集中**」を主張
- ◆ 国連事務局や有識者は、「課題を減らしたい人たちの主張」と批判。
- ◆ 結果、**S (すごく) D (でっかい) G (ゴール)** に。

「あらゆる問題はつながっている」が  
**成功** (多くの人を巻き込むことができる)

17  
ゴール

169  
ターゲット

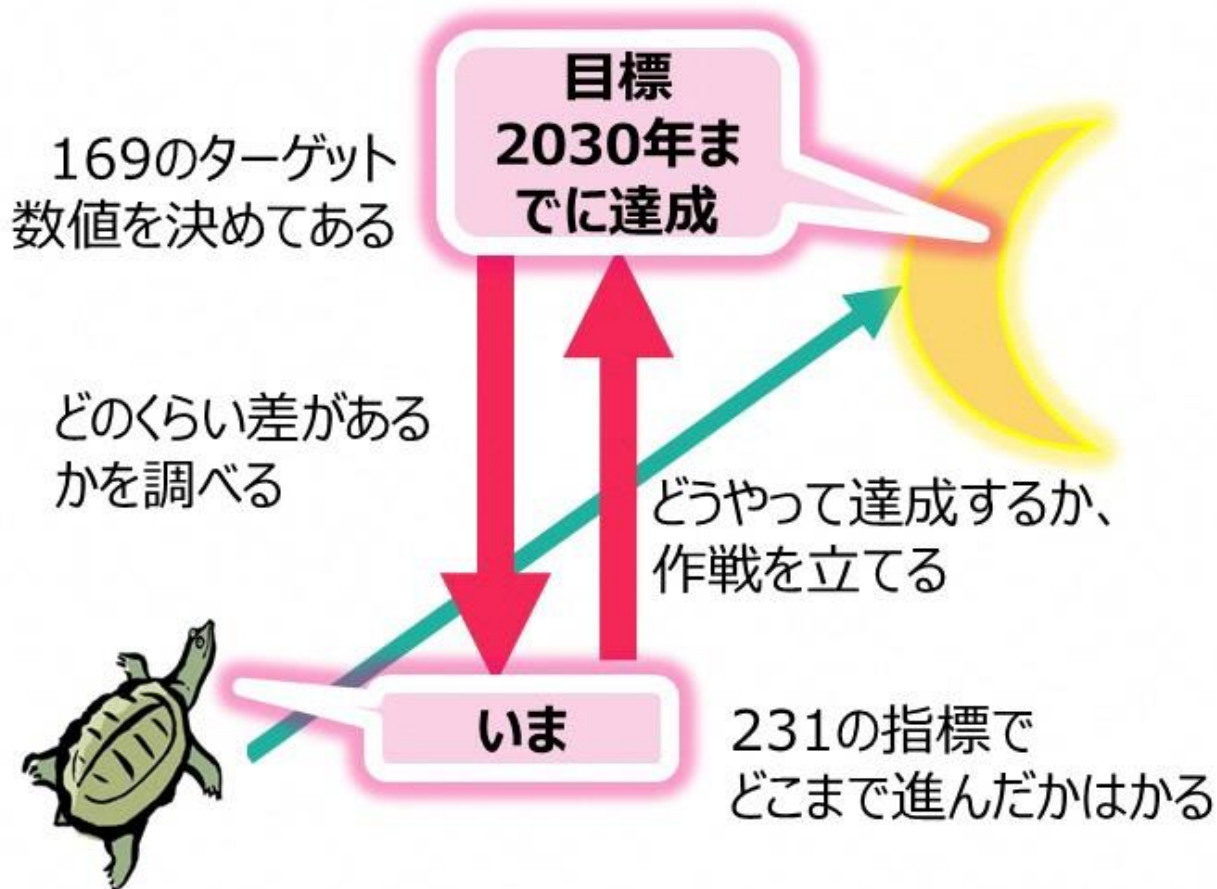
231  
指標



- ◆ グローバル指標を基に、国レベルでローカライズ
- ◆ バックキャスティング・アプローチ (目標から考える)
- ◆ 自発的国別レビュー (VNR) プロセス



# バックキャストイング（逆さに数えて） アプローチ：SDGsの必須要件



そこにあった落とし穴：2016-2030年の間に、「コロナ」のような、全体を後退させる巨大な危機への対応・レジリエンス回復の戦略が組み込まれていなかった。

- ◆とにかく実現しなかったら、地球や人類は「**つづかなくなる**」
- ◆目標から逆算して、どうやって達成するか、作戦を立て、実行することが必要
- ◆**私たちの未来は、SDGsを達成できるかにかかっている。**

# みんなが参加して達成度を測る 「自発的国別レビュー」

## フォローアップ&レビューの 原則(74段落)

国主導・自主的

ユニバーサル

長期的

全員参加型

人間中心・人権に配慮

既存のプロセス活用

細分化されたデータに依拠

アフリカ諸国、小島嶼国、後  
発開発途上国を重視

国連・多国間機関の支援

## 年間を通じたアプローチ

### 準地域

北東アジア  
SDGsフォー  
ラム  
9-11月

アジア太平洋市  
民社会参画メカ  
ニズム (AP-  
RCEM) 北東ア  
ジアコーカス

### 地域

アジア太平洋  
持続可能な開  
発フォーラム  
APFSD 3月

アジア太平洋市  
民社会参画メカ  
ニズム (AP-RCEM)

### 世界

持続可能な開  
発ハイレベル  
政治フォーラ  
ム HLPF 7月

各メジャーグルー  
プその他のステーク  
ホルダー  
(MGoS)、  
A4SD、GCAP

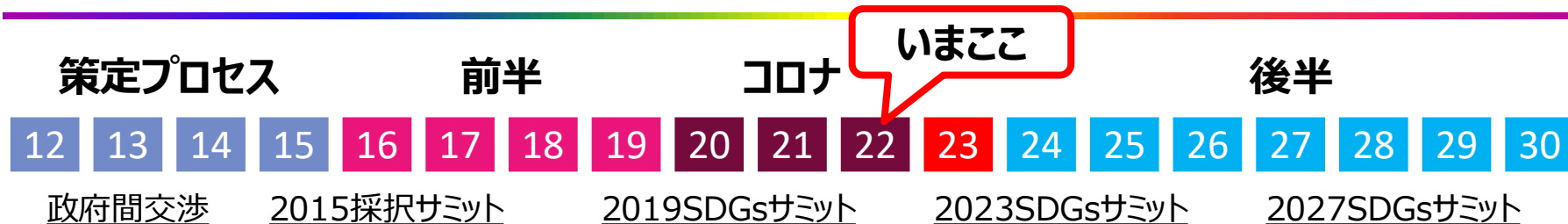
4年に1回、  
「首脳サミット」

◆市民社会の参画が  
一定保障されている

◆各国の自発性を重視→  
第三者の検証が機能せず  
⇒各国の独善的なレビューの場になりがち



# SDGs構想から10年 残念ながら「危機は深まるばかり」



- ◆SDGsレビュー：4年に1回の「首脳級サミット」で評価（次回は2023年：中間年）
- ◆前回の2019年SDGsサミット：グテーレス国連事務総長が「このままではSDGs達成は厳しい」といって「行動の10年」を提起。2020年から「行動の10年」が始まった
- ◆しかし、その2020年からコロナの大流行が始まり、SDGsの各目標・ターゲットはいずれも後退となった。

## 私の 反省

**今の世界を前提に、  
頑張れば達成できるという発想だった**

- ◆ SDGsの取り組みの土俵自体が変化しているのに
- ◆ MDGsのときも「リーマン・ショック」があったのに…。





# 現代世界の危機の深まり

## 三つの「基本的危機」で見通しがきかない状況

### 「地球の限界」の危機

気候変動、生物多様性の喪失 など

### 「地政学的 転換」の危機

巨大経済規模を持つ  
新興国の登場と欧米  
の相対化

### 「科学技術イノ ベーション」が もたらす危機

不公正かつ無秩序な移  
行がもたらす政治・経  
済・社会・文化的危機

危機を乗り越え、新し  
い世界の在り方をつく  
れるかが課題

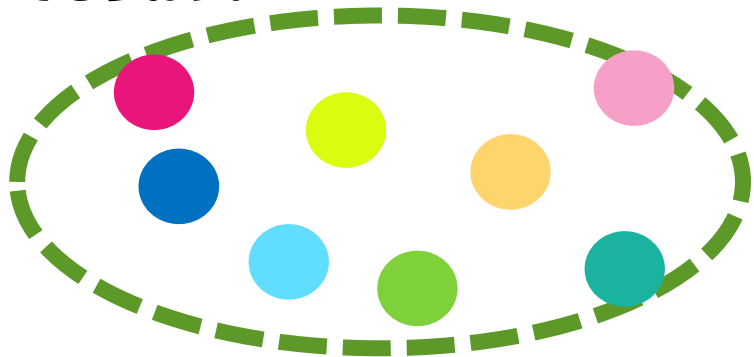
SDGs達成の「土俵」自体が変化し、危機が深まっている



# 目標は高く、取り組む相手は超巨大 「一人一人が」から「みんなで」へ

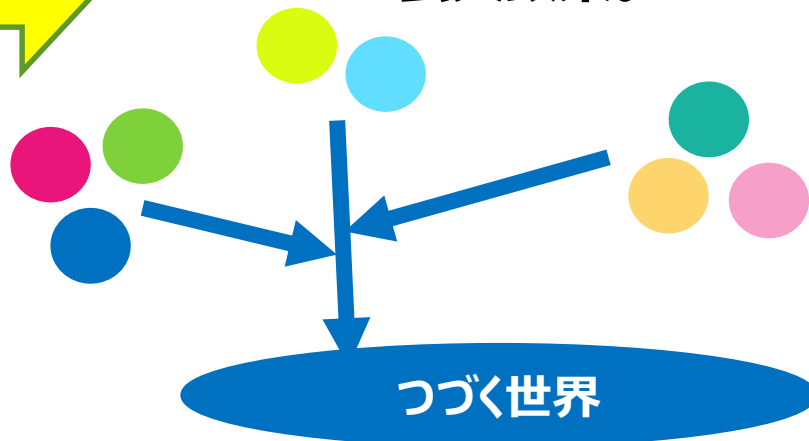
- ◆「つづく世界」を実現するのがSDGsの究極目標。2030年の「ゴールを達成」が必要
- ◆すべては「一人ひとり」から。しかし、実際に「つづく世界」が見えてこなければ、取り組みを続けていけない。
- ◆政府（や地方自治体）の責任は、「一人ひとり」のとりくみをつなげ、「つづく世界」に向けた大河にしていくこと。

政府「SDGsは『国民一人ひとりの努力』が大事」。みんなを啓発して、何でもいからやってもらおう。



始まって  
から7年

実際には、SDGsは「つづく世界」を実現することにこそ意味がある。  
SDGs = 公共政策。



# 1. 地球の限界 「新型コロナ」は「地球の限界」の危機

## 地球の限界

- ◆ エイズ、エボラ、コロナ = 動物からもたらされた病気
- ◆ 自然破壊⇒人間と自然の関係のあり方が変わる⇒今までになかった病原体が自然から人間にもたらされる

巨大台風、山火事、そして、地球規模の感染症…これら「今ここにある危機」は「地球の限界」に由来する危機によって引き起こされている。

オーストラリア  
山火事 (2020.01)



コロナ危機  
(2020-)

西日本大水害、  
台風19号 (2018-19)

## コロナが示す、これからの時代

- ◆ 「地球の限界」に関係した危機が続けて起こる時代 = 「コロナ」だけでは終わらない

地球温暖化や、自然の破壊による危機は「今すぐに何とかしないとイケないものではない」と思われがち。しかし…。

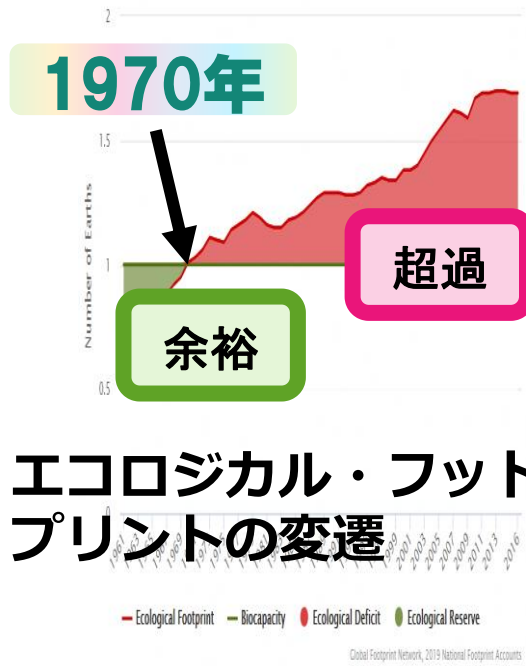
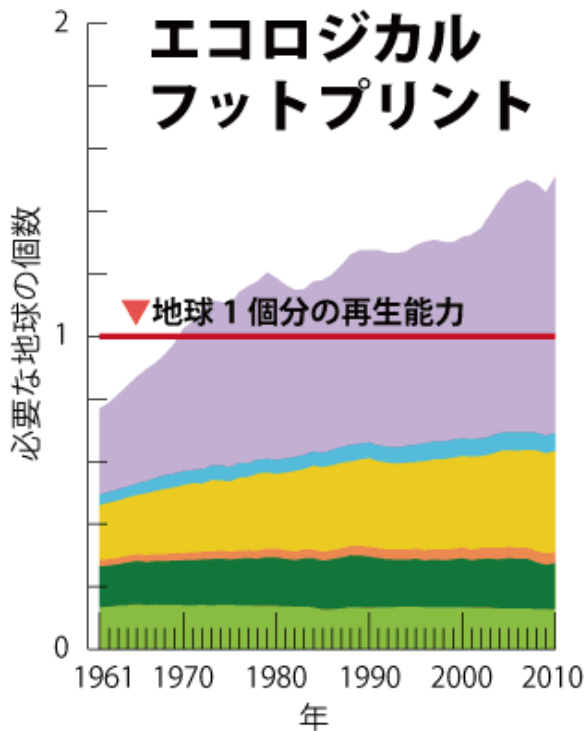


**SDGsは、この危機を解くヒントになる**

# 「地球の限界」の危機の原因

## 地球1.69個分で運営される現在の人類社会

今の人類社会は、地球1.69個分を使っている。



0.69個分は、「将来世代」から奪っている

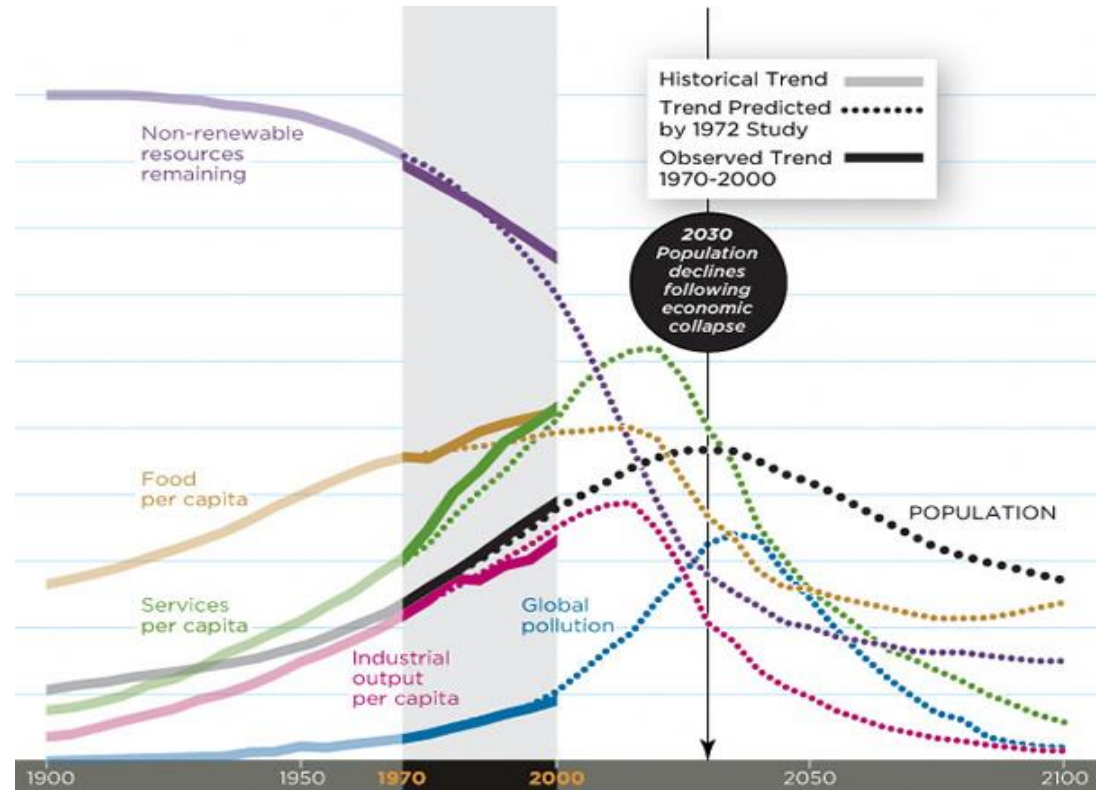
分配の非効率（2016年）

| 国名          | 地球の個数 |
|-------------|-------|
| <b>高所得国</b> |       |
| 米国          | 4.97  |
| 日本          | 2.76  |
| イタリア        | 2.72  |
| <b>中所得国</b> |       |
| 中国          | 2.22  |
| ロシア         | 3.17  |
| 東ティモール      | 0.30  |
| <b>低所得国</b> |       |
| エチオピア       | 0.64  |
| ハイチ         | 0.41  |
| イエメン        | 0.41  |

「将来世代の可能性とニーズを奪うことなく現代世代の可能性とニーズを満たす」仕組みづくりが必要

# 「今の経済・社会システム」をそのまま続けると…？

- ◆ 現在「地球1.69個分」  
⇒ 2030年には「2個分に」(WWF)
- ◆ 70年代に予測された「成長の限界」…現実が予測をほぼ忠実になぞっている。
- ◆ このままでは、「破局」はそれほど遠くない(この予測では2030-40年)



持続可能な世界 = 「未来世代が自らの欲求を充足する能力を損なうことなく、現在世代の欲求を満たすこと」  
SDGsの目的：未来世代が使うはずの資源を奪わずに、私たちの生活を充足させられる社会に変えていくことがSDGsの目的。



# SDGs中間年に向けて SDGsも時代に合わせて進化させる必要

2021年、国連は「UN75」で「我々の共通の課題」を発表



**Common  
Agenda**

- ◆ 「紛争の予防、信頼の醸成」、「デジタル協力」、「パンデミック対策・対応」を含む
- ◆ 2024年9月「未来サミット」開催。



2023年、日本政府は「SDGs実施指針」を改定

- ◆ 2030年に向け「国として推進するゴール、ターゲット、指標」を入れることになっている。⇒「一人ひとり」がつながり、みんなで取り組めるSDGsを目指す
- ◆ そのために、「SDGs実施指針改定に関するパートナーシップ会議」を開催（10月24日）。この会議に向けて提言も募集

**「一人ひとり」から「みんなで」に向けて、国連や政府任せにせず、私たちも道を開いていくことが必要。**

# SDGsの「普遍的価値」 自分・みんなで考え、決め、取り組むこと

人と人をむすぶ力

課題をみつける力  
人と課題をつなぐ力

全ての人を社会の主人公にする力（シビック・プライド）  
「はしっこにいる」から「世界とつながる」へ

## 自分で考え、 つながり、決め、 とりくむ

- ◆ 岡山市（住民提案型モデル事業）
- ◆ 浅口市（交通手段を自らの手で作り出す）
- ◆ 智頭町（百人委員会、山と暮らしの未来ビジョン、福祉との連携）

## みんなが 社会の まんなかへ

- ◆ 都市貧困層と健康
- ◆ 持続可能な開発のための適正な技術選択

## 「つくる・つか う」と所有の在り 方を変える

- ◆ ステークホルダー：企業の在り方の変革（児童労働、紛争鉱物）
- ◆ 労働組合：社会の公共性をまもる
- ◆ 協同組合：生産と消費に関わる所有の在り方を変える



# 「つむぐ・つなげるの目標」 SDGsゴール16と17に注目

＜ゴール16＞日本で一番スルーされている目標だが、  
実は一番実践されている目標でもある

16.6 あらゆるレベルにおいて、効果的で説明責任を果たす、透明性の高い公共機関を発展させる。

16.7 あらゆるレベルで、責任のある、包括的で、参加を保障した、代表制に基づく意思決定を確実に行う。

＜ゴール17＞「パートナーシップ」誰もが参加できるパートナーシップ

17.17 さまざまなパートナーシップの経験、リソース戦略に基づいた、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

ゴール16と17を積極的に押しているのはNGO/NPO

地方自治体の関与が最も必要なゴール16,17の実現



# なぜ「岡山」と「智頭」を取り上げたか 「一人ひとり」から「みんなで」への変化のモデル

## 岡山県浅口市「みどりヶ丘団地」の 交通問題への取り組み



「イキイキグループ」の宮本さんと大畑さん

共通の取り組みは他の地域にもたくさん  
ある：特に「特別」というわけではない。

- 中間支援組織が「てこ」の役割
- 地域の人々の「みんなで」の力を引き出せば、あとは「みんなで」解決できる
- 「つづく」仕組みを考える

## 岡山市の「住民提案型モデル事業」と 智頭町の「百人委員会」



- ◆ 「協働のまちづくり条例」を市民の手で変えるところから始まった岡山
- ◆ 「住民の知恵を借りる」ことから始まった智頭の「百人委員会」

現在の岡山や智頭の「基礎」「価値」を作り出す  
様々な政策を生み出す

- ◆ 慢性疾病を抱える子どもの教育事業、LGBTの人権にかかわる事業 など（岡山）
- ◆ 自伐型林業の訓練のための山林活用、森のようちえん など（智頭）

住民提案型事業 = 「みんなで」の取り組み  
ゴール16.6-7の理念を体現

この時、「住民と課題をつなぐ」役割を果たすのが外部にある中間支援組織



# 地域の資源を発見し活用する 地域自立とシビック・プライド

智頭の山と暮らしの未来ビジョン  
智頭の「次世代」が作った町のビジョン


|              |        |
|--------------|--------|
| 山村の暮らし       | 生活⇒生き方 |
| 自然環境         | ヒト⇒ヤマ  |
| 山村の管理・マネジメント | 所有⇒利用  |
| 林業経営         | 木材⇒人材  |

- ◆ 山林という地域の資源の再発見
- ◆ 山林をベースに生きることの価値の再発見
- ◆ 生業の再生  
町のビジョン＝「誇りと責任」を持って  
地域に生きることの表現

## いたるところで聞いた「シ ビック・プライド」：日本の SDGsのキーワード

- 個人加盟制労働組合の現場で＝世の中の隅っこにいたと思っていた非正規労働者の人たちが、労働運動の中で自分を取り戻していく
- 「すみっこ」に住んでいると思っていた人たちが、地域資源とともに生きる暮らしを見出し、地域の主人公となっていく

「真ん中」と「すみっこ」をさかさに  
自分自身を社会の  
主人公にしていく力



# 「地球一個分の人類社会」には… 「つくる・つかう」と所有の在り方の変革が必要

## ビジネスと人権

責任あるサプライチェーン  
様々なステークホルダーの取り組み

- ◆ 「ビジネスと人権」と「ESG投資」が企業の在り方を変革
- ◆ 一方で、変わるべきものが変わっていない。その最大の例が「知的財産権」による独占
  - メガ・ファーマによる医薬品の独占権
  - アグリビジネスによる食と農の支配
  - 「無形資産」をベースとする国境を越えた税逃れ

本来の「地球一個分の人類社会」を実現するには…  
生産・消費・所有の在り方を変える  
私的所有に基づく経済の在り方の相対化

## 労働組合の役割

全統一労働組合 鳥井一平氏

- 労働力の安売りを許さない
- 労働者は人間。奴隷扱いさせない
- **社会の公共性をまもる**
  - もともとあった社会の公共性への私企業の浸食に対して、どのように公共性を守り、新たに作り直すか。
  - 例えば、技能実習生の課題、在日外国人の人権に取り組む = 社会の公共性をまもること

## 協同組合の役割

- 生産手段の共同所有⇒所有と事業の分離が進行しすぎた結果が現代の協同組合の「陳腐化」
- 「自伐型林業」の試みを「所有」の面から見る = 協同組合の「所有と事業の分離」の克服。
- 共に職場を作り働く「労働者協同組合」 = 協同組合の本来的な意義を示すもの。



# SDGs 今日のメッセージ

◆このままでは、環境、社会、経済が持たなくなる…「地球の限界」

◆SDGsは、本来、この「地球の限界」の危機を乗り越えて、「つづく世界」に変えていくための目標。

- 私たち一人ひとりの取り組みは崇高。すべてのベース
- 一方で、世界全体で「目標を達成」していくことが不可欠
- だから「一人ひとり」から「みんなで」が大事

◆目標達成への道を示し、「つづく世界」への大河をつくるのはだれ？

◆その役割は、**公共政策に責任を持つ政府や行政が負うべき**→国連「私たちの共通の課題」日本「SDGs実施指針」

- しかし、今の世界のルールやしがらみで動きが取れないこともある
- 私たち自身が、つながり、道を開く努力をすることが必要。

◆SDGsもあと8年。「つづく世界」への道を「みんなで」